

## 令和3年度第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

### 1 日程及び場所

令和3年9月30日（木）

Web会議形式にて開催

### 2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

米国と中国を中心とした世界的な木材需要の高まりを背景とする木材価格の高騰や海上運賃の上昇により、木材輸入の減少が続いている。

輸入材の代替として国産材の需要増に供給が追いつかず、不足感から価格が上昇し、高値を維持している。

原木価格は落ち着いたとの見方があるものの、製材工場の製品供給には余力がなく、資材不足や原材料不足からプレカットや合板では受注制限を行っているメーカーもあり、不透明な状況は当面も続くとの見方が強い。

以上のことから、地域の木材需要の動向、民有林材の供給状況、木材の輸出入状況等について情報収集を行いながら、引き続き、国有林からの素材並びに立木の供給・販売に努める。

## 〈主な情報、意見等について〉

### ○木材の需給動向について

- ・和歌山県内4月から6月までの素材生産量は、対前年比7%増加。7月から8月は長雨の影響により出材が伸びていない。4月以降、素材生産事業体に積極的な増産を働きかけているが、作業員が限られているため、素材生産量を急激に増産させることは難しい。そのなかでも、現在増産に向けて取り組んでいる。
- ・岡山県内の素材生産量は、例年、梅雨時期は夏場に向け生産量が少なくなる時期ではあるが、今年度はそのような傾向はなく、意欲的な生産が続いている状況。出材量は前年同月比1.5倍から2倍。
- ・奈良県内の出材状況は、市況の好転により増加。一方で、8月の長雨による林道被害等による事業の遅れが生じた地域もあり、本格的に出材が増加してくるのは10月以降となる見込み。
- ・全国的に、原木の平均単価は下がり始めている。出材量はどこも増えて、十分な原木が出材されていると考える。
- ・原木不足と言われる要因は、今までの旺盛な製品需要により、生材であっても引き合いが強かったが、現在はその流れが元に戻りつつあり、品質が選別されるようになってきた。ただし、その中でも品不足の物は、依然引き合いが強い。
  
- ・奈良県内原木全6市場は、売上金額で、1月から7月までの累計が対前年比プラス16%。販売材積がプラス3%で、原木価格が対前年比約13%上昇。
- ・和歌山県内原木市場の状況は、8月の平均価格が前年同月比、スギ・ヒノキとも㎡当たり約2,000円から4,000円程度上昇。出材量は、前年同月比約2割程度増加。例年であれば、梅雨時期になると価格が下がるが、今年は徐々に上がっている状況。岡山県内の市では、高止まりをしている状況だが、ややピークが過ぎたという見方もあり、相場に落ち着きが見られる。
- ・大阪府内製品市場では、昨年8月から今年の7月末までの売り上げはマイナス4.6%。販売材積は、マイナス12.9%。ただし、今年3月から7月までの5ヶ月は、ウッドショックの影響で連続して前年同月比を上回っている。
  
- ・和歌山県内の製材工場では、原木不足ではあるものの、通常取引分はなんとか対応できているが、新規の注文について慎重な姿勢をとっている。
- ・岡山県では、素材の出材が意欲的で、一定量の出材があるが、製品の価格の上昇は鈍化傾向。しかし、例年比で倍近い価格になっていることに変わり無い。
  
- ・和歌山県内のプレカット工場は、外材の入荷量の減少により、材料がなかなか確保できていない現状から、平常時と比べ生産を減産している工場もある。一部工場では、稼働率は約90%ではあるが、順調に回復し少しずつ在庫も溜まってきている。
- ・岡山県では、7月頃からフル稼働のプレカット工場も見受けられるが、製品不足により非住宅向けまでの材料が回りにくいという声も聞かれる。
- ・構造用合板が不足しているため、素材生産も行うプレカット工場では、原木を合板工場に持ち込み、持ち込んだ量を合板で仕入れているところもある。
  
- ・和歌山県内での木材住宅着工は順調。そのため、県内製材工場では原木の生産を求める声大きい。一方、岡山県の住宅建設は、7月時点では県内新設着工戸数の累計は前年より多いが、先行きは不透明。

- ・和歌山県内のバイオマス発電は、バイオマス用材と競合するC材の需要が伸びたことから、入荷量が減少。県内のFIT認定4社の全体的な入荷量は、対前年比で減少。そのためか、今まで取扱いがなかった樹皮について問い合わせがでてきたところもある。

#### ○今後の見通しについて

- ・秋の原木記念市では、記念市相応の出材が予想されるので、もう少し価格が下がると思われる。
- ・市況が高値で維持されていることから、森林所有者の施業意識も高まっており、秋以降の出材及び、来春にかけての寒伐り材の増加が期待できるが、近畿地区は、民有林の集約化や、林道作業道の整理が進んでいないこと、慢性的な素材生産の担い手不足、トラック物流の不足等々から、この課題を解決していかなければ大きな増産は期待できない。
- ・合板工場では、原木調達ができておらず、入荷遅れとなっている。この状況は来年も続くと思われる。

#### ○その他

- ・国有林の努力により、出材が多くなったが、全体での出材量の増加は、単価に誘われた素材生産業者の出材意欲によるものである。
- ・合板用材の供給が不足しているなか、京都の港からはスギ原木が7月時点で昨年度と同等の量を輸出されていることから、諸外国の例にならい、国内需要優先を原則とした政策が必要と思われる。
- ・国有林の立木販売で、出材条件の悪い立木の公売地においては、不落の可能性が極めて高くなるので、林道等の整備の促進や林班の組み合わせによる、区域の見直しや増量を図るなど、落札した事業者のコスト面や安全面につながるよう配慮をお願いしたい。また、サプライチェーンが明確となっているシステム販売の数量確保も引き続きお願いをしたい。